

会 報

2003年度

1. 春季大会記事

2003年度春季大会は、6月28日(土)に北海道浅井学園大学北方圏学術情報センターにて開催された。以下の通り、一般研究発表、ミニシンポジウムおよび総会が行われた(参加者40名)。

●一般研究発表(10:00~11:00)

岩野 直(北海道大学大学院文学研究科・院):札幌市におけるコンビニエンスストアの立地変動

橋本雄一(北海道大学大学院文学研究科):GISを用いた地理教材の開発—社会資本ストックを事例として—

武田 泉(北海道教育大学岩見沢校):パブリックコメントから見た最近の環境省の政策過程

なお、一般研究発表については、会誌78号に発表要旨を掲載している。

●ミニシンポジウム(13:00~16:45)

「中学校地理教育を考える」(札幌地理サークル第349回例会との共催)

オーガナイザー:

菊池達夫(北海道浅井学園大学短期大学部)

飯田精一(札幌市立稲陵中学校・元札幌市教育委員会指導主事)

趣旨説明:菊池達夫

報告:田丸明史(札幌市立柏中学校):中学校地理的分野における指導実践—身近な地域学習について—
村岡卓爾(札幌市立豊園小学校):小学校における地理学習から

伊藤智章(立命館慶祥中学校・高等学校):中高一貫校における地理教育の現状と課題—地理学習のためのGISの教材化の試みを中心に—

山下 豊(札幌市立啓明中学校):中学校地理的分野の指導と評価

コメント:高平順夫(藤女子中学校・高等学校)

山内正明(藤女子中学校・高等学校)

総括:飯田精一

なお、ミニシンポジウムについては、本号に報告論文を掲載している。

●総会(11:00~11:45)

2002年度事業報告・決算報告・監査報告について:

幹事長より2002年度事業報告、事務局より決算報告、会計監査より監査報告がそれぞれあり、いずれも承認された。事業報告の内容は、次に挙げる4項目だった。1) 春季大

会の開催、2) 秋季大会の開催、3) 例会の開催、4) 「私たちの身のまわりの環境地図作品展」への協賛。そのほか、2003年4月より、事務局を北海道大学大学院文学研究科地域システム科学講座に移転し、業務が順次引き継がれていることが報告された。なお、2002年度末の会員数は、顧問6名、普通会員143名、学生会員27名であった。

2003年度事業計画案・予算案について:

幹事長より2003年度事業計画が提案され、承認された。事業計画案の内容は、次に挙げる5項目だった。1) 会誌74号・75号・76号・77号・78号の刊行、2) 春季大会の開催、3) 秋季大会の開催、4) 例会の開催、5) 「私たちの身のまわりの環境地図作品展」への協賛。これに伴う予算案が事務局より提案・説明され、承認された。

2002年度決算報告(カッコ内は予算額):

(収入)

会費	443,000 (450,000)
雑収入	15,000 (178,500)
<広告料	0 (160,000)>
<会誌販売	0 (8,000)>
<寄付金	15,000 (10,000)>
<預金利子	0 (500)>
50周年記念事業からの繰入	39,194 (0)
前年度繰越金	0 (0)
計	497,194 (628,500)

※会費収納率79.9%。

(支出)

会誌印刷費	412,263 (500,000)
事務費	2,995 (10,000)
通信費	46,180 (50,000)
謝礼	13,465 (20,000)
秋季大会補助	9,640 (40,000)
会議費	5,651 (5,000)
予備費	7,000 (3,500)
次年度繰越金	0 (0)
計	497,194 (628,500)

※会誌印刷費は77号(総会時点では未発行)の予定額であり、名簿印刷費を含む。

2003年度予算案：

(収入)

会費	450,000
雑収入	150,000
＜広告料＞	135,000＞
＜会誌販売＞	5,000＞
＜寄付金＞	10,000＞
前年度繰越金	0
計	600,000

※会費収納率81.2%にて計算。

(支出)

会誌印刷費	340,000
事務費	12,000
通信費	130,000
謝礼	10,000
秋季大会補助	40,000
会議費	8,000
予備費	60,000
計	600,000

※会誌印刷費は78号分。

役員改選：

任期満了に伴う役員改選があり、下記の会員が2003-2004

年度の役員として選出された。

会　長	氷見山幸夫
副会長	大内　　定
	高平　順夫
会計監査	酒井多加志
	三好　　勲

次に、新会長より下記の幹事および委員が委嘱された。

また、幹事の互選により、以下の役割分担とした。

幹事長	寺田　稔
幹事(庶務・会計)	橋本　雄一
	梅田　克樹
	木村　圭司
	鈴木　正章
	岩野　　直
	経亀　　諭
	相馬　絵美
幹事(編集)	渡辺　悌二
	祖田　亮次
	曾根　敏雄
	高橋　伸幸
	張　　貴民
	川村　真也

(編集) 澤田　結基

幹事(集会) 菊地　達夫

　　(集会) 佐久間直樹

　　(集会) 下川　和夫

会則改定：

幹事長より、2003年6月5日の幹事会において審議された会則改定の成案が提案・説明され、承認された。改定された条文は、次の通りである。第6条(評議員制度の廃止)、第7条(第6条改定に伴う修正)、第9条(総会における審議事項の改定)。また、支部制度について定めた第13条を削除した。なお、新会則は、会誌78号に掲載されている。

投稿規定および執筆要領の改定：

編集委員長より、投稿規定および執筆要領の改定について説明があった。なお、新投稿規定および執筆要領は、会誌第78号に掲載されている。

2. 秋季大会記事

2003年度秋季大会は、9月27日(土)～29日(月)に北海道教育大学旭川校にて開催された(東北地理学会秋季学術大会との共催)。一般研究発表33本、巡検Ⅰ・Ⅱおよび懇親会が行われた。

- 一般研究発表(9月28日)＝本会会員の関係分のみ掲載
 - 酒井多加志(北海道教育大学釧路校)：太平洋炭砒の閉山とその影響
 - 武田　泉(北海道教育大学岩見沢校)：モノレール開通と戦後沖縄の鉄軌道計画
 - 丹羽　亮(札幌国際大学大学院観光学研究科・院)・奥平忠志(札幌国際大学観光学部)：札幌地区の宿泊業の立地動向
 - 王　　森(札幌国際大学大学院観光学研究科・院)：北京市のジングルンホテルの経営特徴と課題
 - 楊　　溢(札幌国際大学大学院観光学研究科・院)：中国における観光情報提供の現状と課題
 - 張　　貴民(札幌国際大学観光学部)：中国における地域格差とその要因
 - 山本憲志郎(中央学院大学・教職課程)：守門岳・田代平泥炭地の形成過程
 - 相原　靖(札幌創成高等学校)：高等学校地理教科書における気候区分の問題点
 - 太田　　眞(北海道立上川高等学校)・相田敬史(北海道立上川高等学校)・佐藤　　淳(北海道立上川高等学校)：上川高校における総合的な学習の時間「大雪基礎」—北海道アウトドア人材育成機関としての取組例—
- なお、一般研究発表(関係分)については、会誌78号に

発表要旨を掲載している。

●巡検Ⅰ「石狩川流域の開発史」(9月27日)参加35名

札幌駅北口(8:30)－環状通・国道275号線・運河沿
い農道経由－篠津運河－鶴沼ワイナリー－アルペンゴル
フクラブ(昼食)－砂川神社裏(北海幹線用水路)－北海
頭首工－住友赤平炭鉱旧立坑－道央自動車道経由－北海
道教育大学旭川校(17:00)

●巡検Ⅱ「大雪山旭岳の自然と観光」(9月28～29日)参加
25名

28日：北海道教育大学旭川校(17:00)－旭川市街地－東
川－北海道教育大学大雪山自然教育研究施設(泊)
29日：北海道教育大学大雪山自然教育研究施設－旭岳
ロープウェー－姿見の池周辺散策－忠別ダム建設
現場－旭山動物園－旭川兵村記念館－旭川駅前
(16:00)

なお、巡検Ⅰ・Ⅱについては、本号に報告を掲載してい
る。

3. その他

- ・第13回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」(環境地
図教育学会主催)における優秀作品に対して、北海道地
理学会会長賞を授与した。

「明るい道と暗い道－街灯と街路樹を調査して－」

上富良野町立上富良野小学校5年 末岡さつき

「自動販売機はなぜそこにある？－港区南麻布の例－」

筑波大学附属駒場中学校1年 西川 賢

- ・会員消息(会誌77号掲載以降、敬称略)

入会：伊藤智章(立命館慶祥中学校・高等学校)、佐藤 淳
(北海道立上川高等学校)、澤田結基(北海道大学
低温科学研究所・研)、相馬絵美(北海道大学大学
院文学研究科・院)、土井 陽(北海道地図倶)、
富塚佑樹(北海道教育大学大学院教育学研究科札
幌校・院)、沼田尚也(北海道大学大学院文学研究
科・院)、三好達也(奈良大学大学院文学研究科・
院)

退会：小林和夫、小山賢一郎、清水英一、佐々保雄、佐
藤忠嗣、柳川健一、小石秀一、丸山純孝、佐々木
三千男、鴨志田勇、小林茂、木戸口道彰